

市民リポーター  
沖野さやかさん

●おきの さやか  
美園町在住。24歳  
室蘭工業大学修士課程で  
情報工学を専攻。  
大学で『ものづくり』に  
取り組んでいる。



▲地元特産品が当たる応募はがき付きのぼりべつカレンダー

# 登別ブランド、ものづくりの旅

## 新たな登別ブランド 開発に向けての取り組み

### 『登別ブランド』とは？

『登別ブランド』と一口に言っても、市内にはさまざまな企業や商店が、独自のブランド作りに取り組まれています。

そこで、登別の企業や商店の方が会員となって産業振興を図っている商工会議所が今年発行した『のぼりべつカレンダー』を参考にすることにしました。

『のぼりべつカレンダー』には、自然と人が輝く登別の厳選された写真とともに、明日の登別ブランド作りに努力している企業や商店が掲載

常に新しいものを生み出し、現在の状態をより良いものに常に改善をしていこうとする力、『ものづくり』。

今の厳しい不況の中では、特に、ものを作り出す優れた技術が求められます。

新たな登別ブランドとなる登別の味を追求し、おいしいものを作っている方を訪ね、取り組みについてレポートしました。

され、そこで開発された登別ブランドの候補となる商品が当たる応募はがきも付いています。

早速、カレンダーの1月で紹介されている、『かめや』のおいしそうな極上シフォンケーキから、登別ブランド取材の旅を始めることにしました。

### ふわふわ柔らかいのおもちのような独特のこしの秘密は？

アーニス1階にある『かめや』は、2代目の亀谷和人さんがお店を営んでいます。鉦路や札幌の洋菓子店で10年修行し、お客さまに『おいしいね』と声を掛けていただけのお菓子作りにはまり、別の職業につくことは考えたことがなかったそうです。



市民レポートは、市民の皆さんが自由に発想・企画するページです。



亀谷和人さん

亀谷さんはお菓子作りの現状を次のように話してくれました。

「昔と違い、今は安くておいしいお菓子が大量生産されています。機械の発達で、手作りに劣らない味も確保されています。だから、昔と比べると、設備投資のお金をふんだんに使える大手の菓子屋さんが生き残り、まちなじみのお菓子屋さんは減ってきているんです」

それでは、まちなじみのお菓子屋さんは、どのような営業戦略で対抗していくのでしょうか。

「このごろ気付いたことは、お客さまが求めているものは、実はそんなに変わっていないということです。お客さまも実は自分のふるさとが好きで、ふるさとを大切に思う商品作りの姿勢はみんなに支持されます。